



検温や手指の消毒、マスクの着用など、感染症対策を行ったうえで訓練を実施。自主防災組織育成リーダーの方々による防災講話も行われました。町ボランティア連絡協議会の皆さんが、炊き出し訓練を実施。



新型コロナウイルス感染症拡大の状況下での避難を想定し、避難所に設置する室内テントや立体間仕切り、簡易ベッドなどを使用。実際に電話をかけながら、災害時に避難所に設置する「特設公衆電話」の使い方などを確認しました。



防災行政無線の拡声器機能をテストしました。5月20日に実施した「町災害対策本部訓練」では、各課の職員や関係機関の方々に参加のもと、災害時に想定されることへの対応について、意見を交換しました。

5月24日、町役場で大規模災害発生時を想定した「救援物資の物流訓練（机上訓練）」を実施しました。訓練には、「災害時における物資等の輸送並びに物資拠点施設の運営に関する協定」を結んでいるヤマト運輸や町担当職員が出席。町の物資拠点の確認や国が町からの要請を待たずに物資を送る「プッシュ型支援」の物資調達の流れなどを演習方式で確認しました。

**災害時の物資確保のため  
救援物資の物流訓練を実施**

5月20日、町役場で「町災害対策本部訓練」を実施しました。訓練では、平成30年5月の豪雨災害時に実際にあった内容などを盛り込みながら、本部の設置や運営、会議の進行、各課の対応などを確認しました。また、今回の訓練には五城目警察署や㈱NTT東日本東北、東北電力ネットワーク㈱など関係団体の連絡員も参加し、災害時の停電復旧の対応や、通信ネットワークの確保などを行う際の町との連携を確認しました。

**町災害対策本部訓練で  
各課・機関との連携を確認**

5月20日、町役場で「町災害対策本部訓練」を実施しました。訓練では、平成30年5月の豪雨災害時に実際にあった内容などを盛り込みながら、本部の設置や運営、会議の進行、各課の対応などを確認しました。また、今回の訓練には五城目警察署や㈱NTT東日本東北、東北電力ネットワーク㈱など関係団体の連絡員も参加し、災害時の停電復旧の対応や、通信ネットワークの確保などを行う際の町との連携を確認しました。

シリーズ 高めよう防災意識

実践を通じ災害に備える



5月23日に行った町総合防災訓練。ポリエステル製の立体間仕切りの組み立てなど、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえでの避難所の開設・運営の方法を確認しました（写真は広域五城目体育館第2体育室）。



訓練に参加した皆さんが主体となって、避難所の開設などを行いました（左が五城目一中、右が馬川地区公民館）。

**避難時の行動などを確認  
町総合防災訓練**

5月23日、町総合防災訓練を実施しました。訓練は、町内を震源とする震度6弱の地震と断続的な降雨による洪水・土砂災害が発生したという想定で実施。午前9時30分に町防災行政無線で避難を呼びかけ、参加した馬川地区の住民などが避難までの流れを確認しました。

その後、今回の訓練で避難所に指定した馬川地区公民館と広域五城目体育館、五城目第一中学校の付近に住む方々も参加し、防災用資機材の操作確認や避難所の開設訓練などを行いました。避難所開設訓練の際は、新型コロナウイルス感染症対策として昨年度購入した間仕切りや室内テント、簡易ベッドなどを使用し、避難所での感染症対策を確認しました。

町では、5月23日に「町総合防災訓練」を実施し、町民の皆様の参加のもと、避難経路や避難所の開設・運営の方法などを確認しました。また、5月20日には災害時の町の対応を確認する「災害対策本部訓練」、5月24日には災害時の物資供給の流れを確認する「救援物資の物流訓練」をそれぞれ行い、実践を通じながら災害対応力の向上を図っています。今後このような訓練を通じて課題や反省点を洗い出しながら、災害へ備えていきます。

町住民生活課 (0852・5112)